

令和7年3月21日

北代縄文通信

第53号

北代縄文広場は、平成11年4月に開場し、令和6年4月に開場25周年を迎えました。開場以来、歴史学習の場として、約227,000人(令和7年2月末現在)の方々にご利用いただいています。

これからも、みなさまのご来場をお待ちしています。

ー 令和6年度北代縄文広場の主な活動 ー

🏆 北代縄文広場ボランティアの会が「富山県功労表彰」を受賞！

令和6年11月3日、北代縄文広場ボランティアの会は、北代縄文広場の環境維持や普及活動に尽力するなど地域文化の振興に寄与していると評価され「富山県功労表彰」を受賞されました。

本会は、北代縄文広場が開場する際に地元の長岡地区自治振興会により組織されました。日ごろから来場者に対し北代遺跡の縄文集落の解説や、体験学習の指導等を行っています。



富山県功労表彰の表彰状と盾

🏆 ミニ企画展「新奇贈品展2 北代遺跡の縄文土器」を開催(7/23~1/19)

この展示では、令和5年度に富山市へ寄贈された北代遺跡採集の土器や石器など244点の中から、縄文時代の土器や土製品、石器92点を紹介しました。

寄贈品は、昭和59年に北代遺跡が史跡指定される以前に、市民の方が現在の復元建物3が整備されているあたりで採集された貴重な資料です。

また、これまで本遺跡で出土量の少なかった縄文時代後期の土器資料が含まれており、本遺跡の縄文時代後期を考えるための手がかりになります。



展示の状況

🏆 「夜の竪穴建物見学と星空観察」を開催(8/23 悠久の森 2024 サテライト会場)

北代縄文広場開場25周年を記念して、電気のなかった縄文時代の夜を体験していただくため、普段は閉めている夜間の復元竪穴建物を特別に開放しました。あわせて科学博物館の学芸員の解説による星空観察会を開催し、親子など23人が参加されました。

当日は雲が多く、思うように星は見えませんでした。



竪穴建物見学の様子

電子望遠鏡を使って星を観察しました。また、4,000年前の縄文時代の星空が、現在の星空とは見え方が違っていたことなどをわかりやすく話していただきました。

🍷北代縄文考古楽講座を2回開催(8/3・10/26)

本年度は「縄文人と犬」や「縄文時代の始まり」をテーマとして、講座を2回行いました。

講座その1は令和6年8月3日に開催し、埋蔵文化財センターの近藤主幹学芸員が「縄文人と犬」と題して、発掘調査の事例から、縄文時代の人と犬の関わりについて解説しました。

講座その2は令和6年10月26日に開催し、麻柄一志氏(魚津市教育委員会文化財保存・市史編纂専門員、愛知学院大学文学部講師)を講師に迎え「縄文時代の始まり」と題して、旧石器時代から縄文時代がどのようにして始まったのかについて、16,000年前から始まった気候や自然環境の変化に人類が適応していった様子を、発掘調査の事例や最新の研究成果を基にわかりやすく解説していただきました。

麻柄さんの講座に参加された皆さんからは、長年の経験と深い知識に裏打ちされた切り口で、非常にわかりやすかった、という感想が多く聞かれました。



講座その1 講師の近藤主幹学芸員



講座その2 講師の麻柄一志氏

🍷ミニ企画展「青江コレクションにみる北代遺跡」を開催中(1/21~)

この展示では、平成6年に富山市へ寄贈され、考古資料館で所蔵している青江コレクションのなかから、北代遺跡採集遺物762点のうち縄文時代の土器や土製品、石器、石製品68点を紹介しています。

青江コレクションは、土器や石器などの考古遺物4,350点と図書類で構成されます。遺物の採集場所は富山県内31遺跡と岐阜県内12遺跡におよびます。

遺物には標高約2300mの立山天狗平で採集された石鏃などが含まれ、富山県の考古学を研究する上で貴重な資料です。

遺物の多くには採集地が記録されており、青江氏が真摯に遺物採集に取り組んだ姿を知ることができます。

数の多さや種類の豊富さも重要ですが、遺物の採集記録が正確に残されていることが、コレクションの資料価値を高めています。



展示資料の一部

🍷鯉のぼりの掲揚、「14歳の挑戦」受け入れ、縄文冬まつり開催など

令和6年4月26日~5月6日には、子供たちの健康を願って鯉のぼりの掲揚が地元長岡地区により行われました。令和6年7月3日には「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」で速星中学校の生徒3人を受け入れ、縄文土器づくり用粘土準備などの職場体験活動を行いました。

令和7年1月18日には、長岡地区による縄文冬まつりが開催されました。